

## 第4回専門部会「意見集約」からの主な変更点

第4回専門部会 資料2「今後の水道事業の方向性（意見集約）」	専門部会 まとめ Ⅱ 今後の水道事業の方向性「2. 事業の方向性」
1. 安全で上質な水の供給	(1) 安全で上質な水の供給
<p>(水源の保全)</p> <p>段落番号 4</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>また、水質指標の変化についてわかりやすく広報するなど、水源保全対策の「見える化」についても取り組んでいく必要がある。</li> </ul>	<p>(水源の保全)</p> <p>(削除) ※(上質な水の供給)へ移動</p>
<p>(安全な水の供給)</p> <p>段落番号 6～7</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>今後は、水質維持の観点から配水管の口径の縮小、配水管網の再編や小ブロック化等による滞留抑制を図っていく必要がある。</li> <li>また、管口径の縮小や管網の再編には、多くの時間と費用がかかる。利用者に少しずつ水道水の利用を増やしてもらうなど、水質維持に協力してもらえようような取り組みについても考えていく必要がある。</li> </ul>	<p>(安全な水の供給)</p> <p>2 段落目</p> <p>今後は、水質維持の観点から配水管の口径の縮小、配水管網の再編や小ブロック化等による滞留抑制を図っていく必要がある。ただ、管口径の縮小や管網の再編には、多くの時間と費用がかかることもあり、利用者にも適量な水道利用を求め、水質維持への協力を呼びかけていかなければならない。水道水を利用することが、利用者の安心で安全な生活につながるということを積極的に伝えていくことが重要である。</p>
<p>(上質な水の供給)</p> <p>段落番号 12～14</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>一方で、本市水道局お客さま満足度調査（平成26年度）では、水道水の水質について、約7割の利用者が満足と回答している。</li> <li>今後、経営状況が一層厳しくなるなかで、安全性は最優先であるが、水道の水質は一定レベルに達しており、品質向上にどこまでコストをかけるのかはよく考えていかなければならない。ダウンサイジングや更新など不可避な施策を行う際に滞留の抑制に取り組むなど、適切なコスト管理を行いながら水質の維持・向上に努めていく必要がある。</li> <li>価値観が変化するなかで、水質に対するニーズも多様化していると考えられる。利用者とのコミュニケーションを通して、過剰品質とならないようコストとのバランスに留意しながら、上質な水道水についての価値観を共有していかなければならない。</li> </ul>	<p>(上質な水の供給)</p> <p>4～5 段落目</p> <p>一方で、神戸市水道局お客さま満足度調査（平成26年度）では、水道水の水質について、約7割の利用者が満足と回答している。水道の水質は一定レベルに達しており、今後は、更新やダウンサイジング等の不可避な施策を実施するなかで滞留の抑制を図るなど、水質の維持・向上にかかるコスト管理にも留意していかなければならない。</p> <p>価値観が変化するなかで、水質に対するニーズも多様化していると考えられる。水質指標などを活用した水質の「見える化」など、わかりやすく広報するなかで利用者とのコミュニケーションを図り、上質な水道水について価値観を共有していかなければならない。</p>

<p style="text-align: center;">第4回専門部会</p> <p>資料2「今後の水道事業の方向性（意見集約）」</p>	<p style="text-align: center;">専門部会  まとめ</p> <p>Ⅱ 今後の水道事業の方向性「2. 事業の方向性」</p>
<p>2. 水源・施設整備のあり方</p>	<p>(2) 水源・施設整備のあり方</p>
<p>(水道施設の更新・再編)</p> <p>段落番号 9</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>更新需要の増加は、水道システムの再編について考える良い機会でもあり、更新時期を迎えるまでに効率的な再編方法を十分検討していく必要がある。再編にあたっては、将来的な人口減少に対応したダウンサイジング、ブロック化などの推進のほか、更新時や事故・災害に備えたバックアップ体制の構築を図っていく必要がある。</li> </ul>	<p>(水道施設の更新・再編)</p> <p>2 段落目</p> <p>更新に合わせて、将来を見据えた水道システムへの再編を行うため、更新時期を迎えるまでに効率的な再編方法を十分検討していく必要がある。再編にあたっては、将来的な人口減少に対応したダウンサイジング、ブロック化などの推進のほか、更新時や事故・災害に備えたバックアップ体制の構築を図っていく必要がある。また、歴史的価値のある施設については、高い技術と伝統に支えられた神戸の水道の象徴として顕彰していくべきである。近代化産業遺産が着目されていることから、コスト面も踏まえた施設の利活用についても検討していく必要がある。</p>
<p>(消火用水のあり方)</p> <p>段落番号 15</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>配水管等のダウンサイジングを推進するなか、消火栓の設置など消火用水の確保が新たな課題となる可能性がある。消防水利の基準を踏まえて消火栓を設置する管路と設置しない管路を分離したうえでダウンサイジングを推進するほか、独立採算制である水道事業会計とは区別して、水道利用者に負担の転嫁が起きないような費用負担のあり方について関係者と協議していく必要がある。</li> </ul>	<p>(消火用水のあり方)</p> <p>配水管等のダウンサイジングを推進するなか、消火栓の設置など消火用水の確保が新たな課題となる可能性がある。消防水利の基準を踏まえて消火栓を設置する管路と設置しない管路を分離し、設置しない管路のダウンサイジングを推進する必要がある。また、水道水以外の水源の活用や費用負担のあり方など、水道利用者に負担の転嫁が起きないよう、独立採算制である水道事業会計とは区別した消火用水のあり方について関係者と協議していく必要がある。</p>
<p>3. 災害対策の充実</p>	<p>(3) 災害対策の充実</p>
<p>(東日本大震災の経験を踏まえた取り組み)</p> <p>段落番号 4</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>東日本大震災の経験を踏まえて、近い将来に発生する可能性がある南海トラフ巨大地震に備えた危機管理対策の推進も求められている。水道の災害対応力を強化するためには、水道システム全体として水の供給が途絶えることのないような対策を行う必要がある。</li> </ul>	<p>(東日本大震災の経験を踏まえた取り組み)</p> <p>1 段落目</p> <p>東日本大震災の経験を踏まえて、近い将来に発生する可能性がある南海トラフ巨大地震に備えた危機管理対策の推進も求められている。</p>

<p style="text-align: center;">第4回専門部会</p> <p>資料2「今後の水道事業の方向性（意見集約）」</p>	<p style="text-align: center;">専門部会 まとめ</p> <p>Ⅱ 今後の水道事業の方向性「2. 事業の方向性」</p>
<p>4. 社会環境の変化に適応した事業運営</p> <p>（料金の見直し）</p> <p>段落番号 4</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>人口減少社会を迎え、水道事業を支える人口が減少するなか、料金の見直しにあたっては、利用者の理解と協力を得ることが不可欠である。将来世代に負担を先送りしないためにも、可能な限りの経営改善に取り組んだうえで、経営状況など幅広い情報を積極的に広報し、料金体系のあり方のほか、提供するサービス水準や料金水準についても、利用者と共に考えていけるような機運を醸成していかなければならない。</li> </ul>	<p>(4) 社会環境の変化に適応した事業運営</p> <p>（料金体系の見直し）</p> <p>4 段落目</p> <p>人口減少社会を迎え、水道事業を支える人口が減少するなか、料金体系の見直しにあたっては、利用者の理解と協力を得ることが不可欠である。将来世代に負担を先送りしないためにも、可能な限りの経営改善に取り組んだうえで、経営状況など幅広い情報を積極的に広報し、利用者と共に考えていける機運を醸成していかなければならない。水需要が急速に減少するなかで、現在の安定給水等の水準（サービス水準）を現行の料金水準で将来に渡って維持することは困難であると考えられる。水道は生活の基盤となるライフラインであり、水道事業者と利用者が十分にコミュニケーションを図りながら、料金体系の見直しのほか、サービス水準と料金水準のバランスがとれた事業運営を行っていかねばならない。</p>
<p>5. 市民とともにつくる豊かな生活</p> <p>（次世代を担う子どもたちへの広報）</p> <p>段落番号 9</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>水道水のイメージは先入観に依存する部分も大きい。小中学校等における水道学習の場を活用するなど、教育現場とも積極的に連携を図って水道水の安全性をPRし、水道を正しく理解してもらえるような教育「水育（みずいく）」を行っていくことが重要である。</li> </ul>	<p>(5) 市民とともにつくる豊かな生活</p> <p>（水育（みずいく）の推進）</p> <p>次世代を担う子どもたちに水道への理解を深めてもらうため、小中学校等の教育現場とも連携して水に関する教育「水育（みずいく）」を推進していくことが重要である。</p> <p>水源から蛇口までの神戸の水道の仕組みや水道水の安全性に加えて、大切な水を育む自然の仕組み、災害時の水利用や水害の脅威など、水に関わる様々な事柄を学ぶことで、将来の水道を支える人材を育成する取組みが期待される。</p> <p>また、子供たちだけでなく、親子や大人を対象にした「水育」にも取り組み、水道への理解を深めてもらう必要がある。</p>